

島根県立大学出雲キャンパス
紀要 第13巻, 75-80, 2018

糖尿病療養者と家族および知人を対象とした ヘルスツーリズムの満足度調査

日野 雅洋・石橋 照子・大森 眞澄・藤井 明美

概 要

本研究の目的は、平成29年度に3回実施し糖尿病療養者とその家族、知人が参加したヘルスツーリズムに対する満足度を明らかにすることである。参加者は糖尿病療養者とその家族および知人であり、延べ人数は31名だった。自記式無記名の質問紙調査を実施し、ツアーの企画と運営に関する満足度を問うた。結果、ツアー全体に対して満足と答えた割合は90.3%を示した。糖尿病療養者が家族や知人と共にヘルスツーリズムに参加することは、健康の回復や維持につながるセルフマネジメントを促進する可能性が示唆されたと考える。

キーワード：ヘルスツーリズム、糖尿病療養者、家族、満足度調査

I. はじめに

近年、健康や体力の回復・維持・増進、疾病予防を主眼とする「ヘルスツーリズム」が注目され、各地で取り組まれるようになってきた(日本観光協会, 2012)。島根県立大学でも、平成28年度より糖尿病療養者のメンタルヘルスに焦点を当てたヘルスツアーを企画し実施している。

糖尿病とメンタルヘルスに関する研究では、糖尿病を有する人のうつ病併存率は、一般人口と比較して約2倍高く(Anderson, 2001)、糖尿病管理に関する精神的ストレスや合併症の併発がうつ病を惹起する可能性がある(峯山, 2013)と指摘されている。そこで、本研究では、平成29年度に実施した全3回のヘルスツアーに参加した糖尿病療養者とその家族、知人の、本企画および運営に関する満足度とその理由を明らかにする。

II. 研究目的

全3回のヘルスツアーに参加した糖尿病療養

者とその家族や知人が本企画および運営に関して、どのくらい満足しているのか、その理由を明らかにすることである。

III. 研究方法

1. 研究参加者

対象は、本ヘルスツアーへの参加を希望した者。糖尿病療養者とその家族・知人である。ツアーへの参加の呼びかけは、研究者がチラシを作成し、A地域にある糖尿病「友の会」や糖尿病療養者が定期受診している医療機関を介して、糖尿病療養者とその家族や知人に対して行った。

2. ヘルスツアーの概要

参加に伴って参加者に与える負担を考慮し日帰りツアーとした。参加者の通院している医療機関やコミュニティセンターなどを集合場所として、バスを用いてツアー先まで移動した。3回全て島根県内であり、第1回は7月に邑智郡美郷町にて、研究者3名のスタッフで実施した。第2回は9月に仁多郡奥出雲町にて、研究者3

表1 ヘルスツアー各回のプログラム

回数	行き先	プログラム
1回	美郷町	講話:「ストレスと対処法」
		食事:町を一望出来るレストランで地元食材を用いたメニュー
		食後に現地糖尿病友の会との交流
		体験:陶芸, 塗り絵体験
2回	奥出雲町	講話:「日常生活でのストレス対処法」
		食事:神社境内のそば屋で地元特産のそばを用いたメニュー
		体験:ミニそばん・そばん珠アクセサリーづくり
3回	大社町 鷺浦	講話:「リラクゼーション技法」
		食事:仕出し弁当で地元の海の幸を用いたメニュー
		体験:藻塩づくり, 街歩き

名と糖尿病療養指導士の資格をもつ看護師1名のスタッフで実施した。第3回は11月に出雲市大社町鷺浦地区にて、研究者3名と糖尿病療養指導士の資格をもつ看護師1名、学生アルバイト2名のスタッフで実施した。

各回のツアープログラム(表1)は、オリエンテーションの後、ストレスに関する講話を実施し、その後に昼食、ツアー先の特徴に応じた体験をプログラムした。昼食は、管理栄養士監修によって地元の食堂のメニューを600kcalに調整し提供した。なお、第1回ツアーのみ、食事後に現地糖尿病友の会との交流を行った。

3. データ収集方法

研究者が独自に作成した無記名自記式のアンケートをツアー終了時に参加者に対して実施した。アンケート内容は、本ツアーの講話や食事、体験などの内容に満足できたかと共にその理由を自由記載するものとした。

4. 分析方法

アンケート結果の分析については単純集計を行った。理由についての自由記載は、プログラム全体に共通する記載と企画毎の内容に整理し分類した。

5. 倫理的配慮

ツアー参加者へのアンケート調査協力の依頼はツアー実施日の開始時点で文書と口頭にて

行った。同意後でも撤回できることやその場合もツアーには参加できることなどの説明を行い書面にて同意を得た。また、身体状態の悪化や精神的な負担がみられた場合にすぐ対応できるように糖尿病療養指導士の資格を有する看護師もスタッフとして参加し、そのようなことがあれば直ちに中止することとした。

なお、本研究は島根県立大学出雲キャンパス研究倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号180)。

IV. 結 果

アンケート用紙は第1回12名、第2回11名、第3回8名の研究参加者31名に配布し、全員から回収した。

1. 研究参加者の概要および参加理由

研究参加者の概要は、年齢が50歳代3名(9.7%)、60歳代8名(25.8%)、70歳代16名(51.6%)、80歳代4名(12.9%)であった。性別は男性13名(41.9%)、女性18名(58.0%)であった。糖尿病療養者は22名(71.0%)であった(表2)。

参加理由では、「価格が安いから」5名(16.1%)、「行き先が魅力的だったから」7名(22.6%)、「健康に対する興味・関心が高いから」17名(54.8%)、「大学が関係するツアーだから」10名(32.3%)、「知人友人に勧められたから」7名(22.6%)、「施設・婦人会に勧められたから」

表2 対象者の概要

	第1回	第2回	第3回	全体
1)年齢				
50代	2	1	0	3
60代	3	2	3	8
70代	5	6	5	16
80代	2	2	0	4
2)性別				
男性	5	4	4	13
女性	7	7	4	18
3)糖尿病				
糖尿病(有)	7	8	7	22
糖尿病(無)	5	3	1	9

6名(19.4%),「その他」2名(6.5%)であった。

2. ツアーの満足度(図)

1) ツアー内容の満足度

ツアー内容の満足度では、「満足」20名(64.5%),「やや満足」8名(25.8%),「どちらでもない」1名(3.2%),「やや不満」0名(0%),「不満」0名(0%),無回答が2名(6.5%)であった。

2) 講話の満足度

講話の満足度は、「満足」22名(71.0%),「やや満足」7名(22.6%),「どちらでもない」0名

(0%), やや不満0名(0%), 不満0名(0%)であり, 無回答が2名(6.5%)であった。

3) 食事の満足度

食事の満足度では,「満足」18名(58.1%),「やや満足」8名(25.8%),「どちらでもない」4名(12.9%),「やや不満」0名(0%),「不満」0名(0%)であり, 無回答が1名(3.2%)であった。

4) 体験の満足度

各ツアーで行った体験の満足度は「満足」14名(45.2%),「やや満足」10名(32.3%),「どちらでもない」2名(6.5%),「やや不満」1名(3.2%),「不満」0名(0%)であり, 無回答が4名(12.9%)であった。

3. 自由記載の内容(表3)

自由記載では, 全体のプログラムに関することとして「全体の流れがスムーズ」、「普段体験できないことができた」などの記載があった。また, 講話に関することでは「とても楽しい調子でリラックスできた」、「教え方が具体的でわかりやすかった」などの記載があった。食事に関することでは「食事も美味しかった」、「ヘルシーで美味しかった」などの記載があった。体

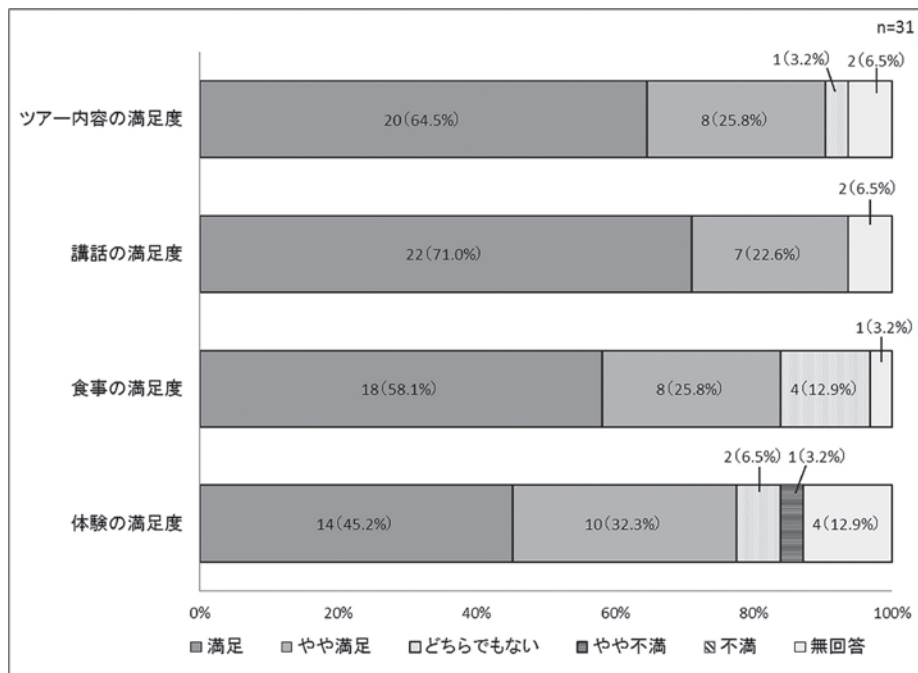


図 ツアーの満足度

表3 自由記載の内容

分類	代表的な記載内容
全体のプログラムに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の流れがスムーズ ・普段体験出来ないことが出来た ・とても細かい所に(スタッフの)気配りがある ・(スタッフは)その人その人に向き合っておられる ・(スタッフが)いつもそばに居て下さるので安心 ・おしゃべりが楽しい ・参加者とコミュニケーションがとれた
講話に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方を再認識出来たから。又多くの情報を得られました ・自分の思っていることと、皆さんが感じておられるのを比べられる ・分かりやすかった ・聞いていても、何のことがどういう理由かが分かった気がした ・とても楽しい調子でリラックス出来た ・教え方が具体的でわかりやすかった ・頭の中がゆったりした
食事に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・食事も美味しかった ・見た目も良く、美味しかった ・目で楽しみ、淡味が良かった ・薄い味付け、美味しい盛りつけ ・お蕎麦が美味しかった。そば処が良かった ・私のカロリー量に近く、皆食べられた ・カロリー計算がされている ・ヘルシーで美味しかった ・思ったより食後が満腹でした ・油ものも少なく、魚がおいしかった
体験に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な体験ができた ・お皿が楽しみ ・初めての経験で良かった ・地区の歴史が良く分かりました ・子供心に帰った ・素敵なアクセサリーが出来た ・新しい情報が得られました ・新しい発見が多かった ・地区の歴史が良く分かりました。 ・そろばんづくりが難しかった。分かって良かった ・行程が多すぎた ・町歩きは坂が大変でした

験に関することでは「色々な体験ができた」、
「地区の歴史が良く分かりました」という記載が
あった。

V. 考 察

本ヘルスツアーの満足度調査では参加者の
90.3%が「満足」「やや満足」と回答した。その
内容の食事、講話、体験それぞれの満足度も「満
足」「やや満足」を合わせて約80.0%と高い満足
度を示した。

このツアーでは、全3回を通してストレスに
ついての講話を行っている。そして講話だけに
限らずツアー中は、参加者同士が語りあえる時
間を設けた。自由記述は「自分の考え方を再認
識出来たから。また、多くの情報が得られまし
た」、「自分の思っていることと、皆さんが感じ
ておられるのを比べられる」と肯定的であった。
本ヘルスツアーでは糖尿病そのものに目を向け
るのではなく、二次的に発生し得るうつ病予防
のためのストレス管理について焦点を当てたこ
とが、参加者にとって新たな学びを得ることに

つながり高い満足度になったと考える。また、村上ら(村上ら, 2009)は、糖尿病患者の自己管理を促進する要因として家族の支援を挙げている。本ヘルスツアーは、家族や知人も参加している。糖尿病療養者が家族や知人と共に講話に参加し、学び語りあう機会となっていることは、糖尿病療養者の自己管理を促進することになり得ると考えられる。

糖尿病療養者は飲食店など外出先では提供される食事のカロリーを自分で考えて調整しながら食べる必要性に迫られる。本ヘルスツアーは食事を600kcalに調整したこと、糖尿病療養指導士の資格を有する看護師や看護学生がスタッフであることから、糖尿病療養者が安全に参加できていたのだと考えられる。これに加え、地元の食堂で地域性や季節感のある料理を提供している。研究参加者の自由記述に「見た目も良く、美味しかった」、「私のカロリー量に近く、皆食べられた」とあるように、安全を優先しつつ、味や地域性を感じられる食事としたことが、糖尿病療養者をはじめとした参加者の満足につながったのではないかと考える。

ツアー先の特徴に応じた体験では、自由記述で「初めての経験で良かった」、「新しい発見が多かった」とあった。研究参加者の居住しているA地域から普段なかなか訪れることのない地域を選定し、その地域の特徴的な体験を盛り込んだことがこの結果に影響を与えたと考える。一方で「行程が多すぎた」、「街歩きは坂が大変でした」といった記述もあったことから、研究参加者個々に応じたプログラムが必要であると考えられた。

今後も魅力あるツアーとなるようにプログラム内容の充実を図り引き続き効果を検証していくことが必要である。

Ⅵ. おわりに

アンケート結果からは、参加者のうち90.3%の方が「満足」「やや満足」と答えており満足度が高く、自由記述からは肯定的な記載が多かった。糖尿病療養者がその家族や知人とヘルスツーリズムに参加することは、自己管理行動

や精神的支援につながる可能性が考えられた。

謝 辞

本ヘルスツアーの実施にあたり参加頂きアンケートにご協力頂いた参加者の皆様、また、参加者の取りまとめを頂いた医療機関の皆様に感謝申し上げます。

文 献

- Anderson RJ, Freedland KE, Clouse RE, Lustman PJ (2001) : The prevalence of comorbid depression in adults with diabetes, *Diabetes Care*, 24, 1069-1078.
- 峯山智知, 野田光彦 (2013) : 糖尿病とうつ, *日本老年医学会雑誌*, 50, 744-747.
- 村上美華, 梅木彰子, 花田妙子 (2009) : 糖尿病患者の自己管理を促進および阻害する要因, *日本看護研究学会雑誌*, 32 (4), 29-38.
- 日本観光協会 (2012) : ヘルスツーリズムの手引き, 9, 日本観光協会, 東京.

Satisfaction Survey of Health Tourism for Diabetic Patients and Their Families and Acquaintances

Masahiro HINO, Teruko ISHIBASHI, Masumi OMORI
and Akemi FUJII

The University of Shimane, Faculty of Nursing

Key Words and Phrases : health tourism, diabetic patients, family,
satisfaction survey